



「半導体」と「食料基地」と 「分析化学」と「教育」と…

木村-須田 廣美

皆さん、いかがお過ごしですか？ 卒業式、そして大学院への進学、あるいは会社の上社式のシーズンを迎え、新天地に向けて胸躍らせている頃でしょうか？ 私は、昨年9月に参加した日本分析化学会第72年会（熊本城ホール、熊本県）で感じた「半導体」ビジネスの勢い、そしてそれを生かそうとする熊本県の熱量に刺激を受け、これから北海道で展開される「半導体」ビジネスに向けて、いかに研究や教育を進めていくかワクワクしています。熊本県にもたらされた「半導体」ビジネスは、同じ九州地区の福岡市で行われている博多や天神の大規模再開発と同時進行しているため、とても眩しく感じます。春までコロナ禍（2023年10月に原稿を執筆）で活動を制限されていたとは思えないくらい活気があります。さて、北海道では、次世代半導体の製造拠点である Rapidus（ラピダス）株式会社が、私の所属する公立千歳科学技術大学のすぐ近くに來ます。本学は原生林に囲まれ、学内でシカやキツネを見かけることも珍しくありません。最近では森林の隙間からクレーンが見えます。工事関係の車も増えました。そのためか、学生の間でもラピダスの話題が増え、大学の近くで「半導体」ビジネスが展開されることに期待を寄せています。通学で使われる千歳線沿線の北広島には新球場が開業（2023年3月）し、新名所として観光客で賑わっています。2030年度末には新幹線が札幌まで延伸される予定で、それに伴い札幌の中心地区でも再開発が行われています。この状況は、熊本や福岡とよく似ています。

北海道は農林水産業の国内供給量の約2割を占める、言わずと知れた日本が誇る食料基地です。北海道の食料自給率はカロリーベース、生産額ベース共に220%を超えています（2023年北海道農政部による調査）。広い大地ときれいな水がもたらす恵みは本学周辺でも見られ、日本有数の透明度を誇る支笏湖（全国1位を20回）、夏から秋にかけてベニザケが遡上する美々川、シロザケが遡上する千歳川が流れています。冬の千歳川には白鳥が休憩にやって來ます。また、野菜の生産や畜産業も盛んに行われています。一方、どの産業にも言えることかもしれませんが、農業の労働者確保の問題が顕在化しています。「半導体」は様々な企業がかかわることから人も集まり、熊本で感じたような勢いで道央地区を活性化させるでしょう。このような背景の中、「半導体基地」>>「食料基地」という図式にならないよう、日本の食料基地を守るために、今更ながら「工業」と「農業」が上手く共存できるよう切実に願っています。この願いをいかに具現化させればよいのか？ そのために「分析化学」で何ができるのか？

「計測」とデータに基づいた「分析・評価」は、「半導体」の質や「食」の安全・安心を保証します。農業のスマート化が進めば、よりいっそう計測や分析を専門とする人材が必要になるでしょう。学生の皆さんには、このような背景を理解し、ワクワクしながら「分析化学」を学んでほしいと願っています。

〔KIMURA-SUDA Hiromi 公立千歳科学技術大学、北海道支部副支部長〕